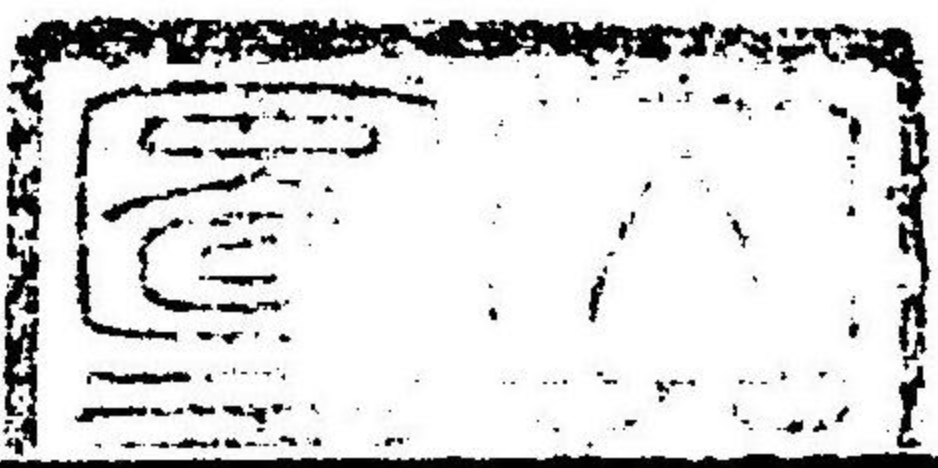


wurde  
 die ~~Historie~~ die  
 Ursprungsgeschichte  
 der Sprache, sowie  
 alle Missverständnisse  
 gegeben.



萬國  
 百種語卷附  
 東京

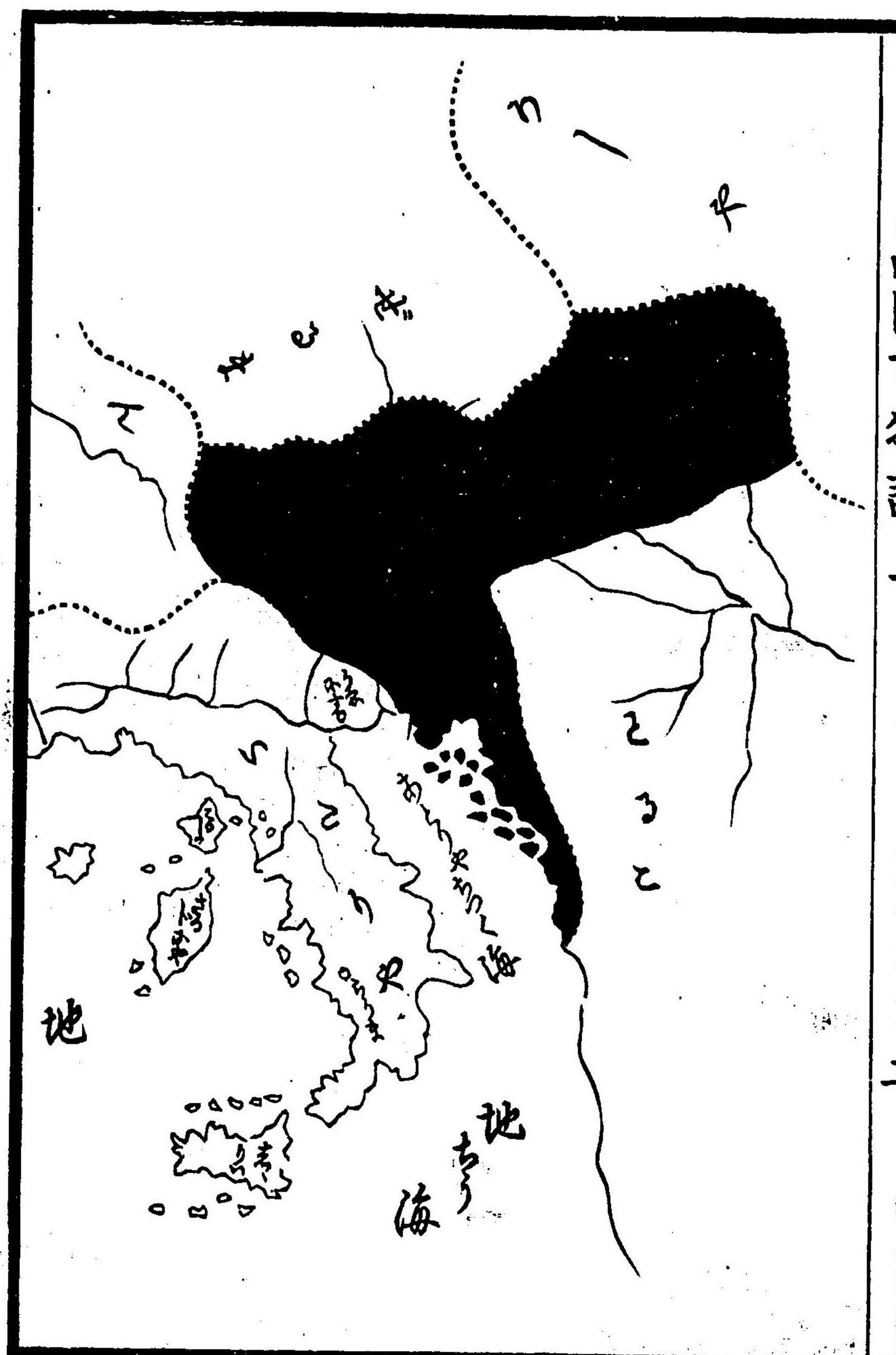
瓜生政和編集

○ 埃地利國のそる

埃地利の歐羅巴の内の五ツの大國の一ツふして  
 日耳曼連合の王侯の総頭取日耳曼帝の正統あり  
 一が仏蘭西國の拿破崙帝と兩度大戦争を  
 二度るが敗北ふ及ぶと以て日耳曼帝の位を下り

居ありてる拿破崙帝なぱろん魯西亞の戦争せんそう不敗ふたいせし後終のちつひ  
 小捕虜こらぼれとありて配流はいりゅうせらるる當国の王とうこくのわう此度の  
 日耳曼帝にちにまんていと言いはず埃地利帝あすたりていと稱いへてまじり日耳曼  
 連合の国の頭取くわんごうと成りてり一六年いちにじゅうろくにんの普魯士  
 と戦争せんそう不及びふ及びけ戦いくさひふも負日耳曼頭取にちにまんくわんごうの株かぶと  
 普魯士国へ取らると日耳曼仲間にちにまんちゆうまと省しやうくまるとり然しかと  
 どもは是こゝ不従ふじゆふ日耳曼の國々十の中くにじゅうのちゆうめて三ツハ残のこり  
 け国の先祖せんぞと羅爾德帝らうとくていとあり領分りやうぶん廣く山多やまおほ

き故ゆえ小時とこ候ころ大概たいがい三ツ分さんぶんと南みなみ寄よりくる土地とちハ復また  
 小成こなりると照てり繞めぐり暑あつさ烈あつしくシニコ風かぜ或あるいはシロツコ風  
 と云いふもの吹ふて大熱耐おほなつへかゝる海うみ近ちかきふ至いたるがハル  
 ラと号なづけ大氣たいきと洗せん淨じやうする暴風ぼうふう起おこり人間にんげん牛馬うまハ言い  
 ふもさらふ蚊蚋ぶんゑいの類るいひふ及およぶまご惱なやみ苦くるむと甚あまぐ  
 又北またきたへ寄よりくる方かたハ天氣てんき衰やす安やすく春秋しゅうしゅうハ取とり分わけけ雲くも  
 雲立くもたち掩おほひ眉毛まゆげと拂はらつて通とほるあり  
 け国海くにうみ少すくく山多やまおほとて以もつて総すべての物もの不自由ふじゆうなり



二代目ヨセフと云ふ帝能力と尽く耕作の開拓  
 と致させけと他国の産物と待ずと領分中  
 の品ふて十分用の足りると成りし  
 け国の名高き大國も歐羅巴の切の中ふ  
 在ると以て僅ふ一部の地亞得亞海ふ臨み千里エ  
 ストと云ふ港あるのと餘の亞爾伯山嶽の山脈四面ふ  
 漫延りて嶮岨多く日本信笈の地形ふ似し  
 多悩と号る大河あり冬ハ氷封て船の往通ふ出

来ず春の暖あるふ至り河源ある山々の雪解る時の  
 出水して兩岸ふ溢れ或ハ河ふ張詰る氷一時  
 破れ裂る事有り其声百千の雷の如く山谷と  
 震つて鳴動するあり甚くは至りて破れ氷面  
 岸ふ飛散して家居田畑と荒すと夥く既ふ十  
 年おのころ首都の町とビス府の間の兩岸大氷  
 破れ氷のぬふ禍失と蒙り大のぬおと害せしむ  
 首都と維也納と言ふ町の中セントラスチフェンス

と言ふ寺小歐羅巴島の中ふて弟二番と稱す  
塔あり高さ立て七十七間三尺の高さふ至るその  
結構美麗なるものごとく眼と驚馬くむ

け府へ土耳其の大兵兩度攻寄せ  
崙の軍勢も二度押迫り来り大戦争を為し  
の所をど世ふ名の聞えたる旧跡多し

○波希未、摩拉維の地小アテルスバクと号け  
あり歐羅巴中の景色よき所ふて長さ三里幅

里半程の間幾々たる巖石一面小突出し其形ち宮殿

小似たるものありまゝ堂塔と怪む可きあり回廊

の如く長く連り橋の如く高く聳身ゆるごと画工も筆を

投うちてその眺望おの然然たるべし

○士的里亜の地ハ亞爾伯の山脈続き小嶮多

所々の溪間より鑛と出すと夥しく四辺の者ハ

鑛と掘るを以て業と為るあり

け処小首都維也納よりチリエスト港へ往の鑛道

萬國百物語



○蒸氣車  
の  
隧  
道  
と  
し  
て  
と  
る

掛より峻峻の山嶺と兵千  
尺の深き谷と且一石を疊  
て棧を作り崖の半服小  
廻らせ絶壁の山峯の麓は方  
より彼方へ通して隧の道と  
附るど一実不廣大の仕掛  
あり汽車道の取分高さ  
小昇り一所の海の水の面

より大畧二百八十丈餘の上小至るとり

當国の亞爾伯山の意太里国仁蒙西国日耳曼国の三国

小蟠亘其支脈分として十の山とある絶頂の四季とも

小雪と戴り取分けく高き山峯の海の水面より廿八

丁或ひの二十五丁その低さののちても十三丁小下り

斯の如くあるゆゑ往昔の當国の人々隣国へ往返めん

おろ山路の峻嶺あると以て難津八方あるらざりしと七十

年秋ち小仁蒙西帝拿破崙大の土木の人夫と起し

新規おは山中へ四の道と乍ら絶壁の高き山巖  
 窟の深き谷をどおく如何おともぬいぐとて所へ  
 石と積て棧と渡し其長さ十里餘お至る是則ち  
 支那おありと云ふ蜀の棧道お類せりのくは路  
 出来てよろし旅人の往返易さお至りし全く拿  
 破崙の賜物ありとて今も於その功績と称せる  
 當國の何との府下おても大小の煩と鑄立て所の

名産とるすも故あるる抑銃炮の濫觴は西洋の  
 書物の中おも衆人の説區々おして確呼と定め難  
 一としども其実に支那人の發明をせしものあると  
 け国の僧徒抜爾獨兒度とらふ者お竊お彼の地よ  
 り是を傳習し來り我ら術と試験中偶然お發  
 明せしと言ひ觸せしり然ととも歐羅巴お中お  
 けけ国の抜爾獨兒度元祖ある故今も於其機  
 械と製するを以て職業とるもの當所お多し

○加里細国のうちふ「ウイリツサ」と呼ぶ町ありけ処の山  
 塩の名物あり六百年おより日々是と掘出し其  
 得るところの塩の高世界第一多しと云ふ塩と  
 出す礦密の府の町の下地と百二十丈ほど掘抜  
 き其中ふありけ処に住居ふ人の概ね礦密の中  
 ふ在りて塩と出すの稼とぬすゆ急益の間に町の  
 家々寂莫と淋しく往來の人も又稀あり塩穴へ下  
 り往路三條あり途中の足留りの勿論堂塔家居

神仏の像ふ至るまで皆山塩と彫刻んで持へるもの  
 と置り奇妙風雅言辞ふ尽しぐく又塩の池ありて  
 船と浮べ府下の用便ふ備ふと言ふ

○西班牙國のそと

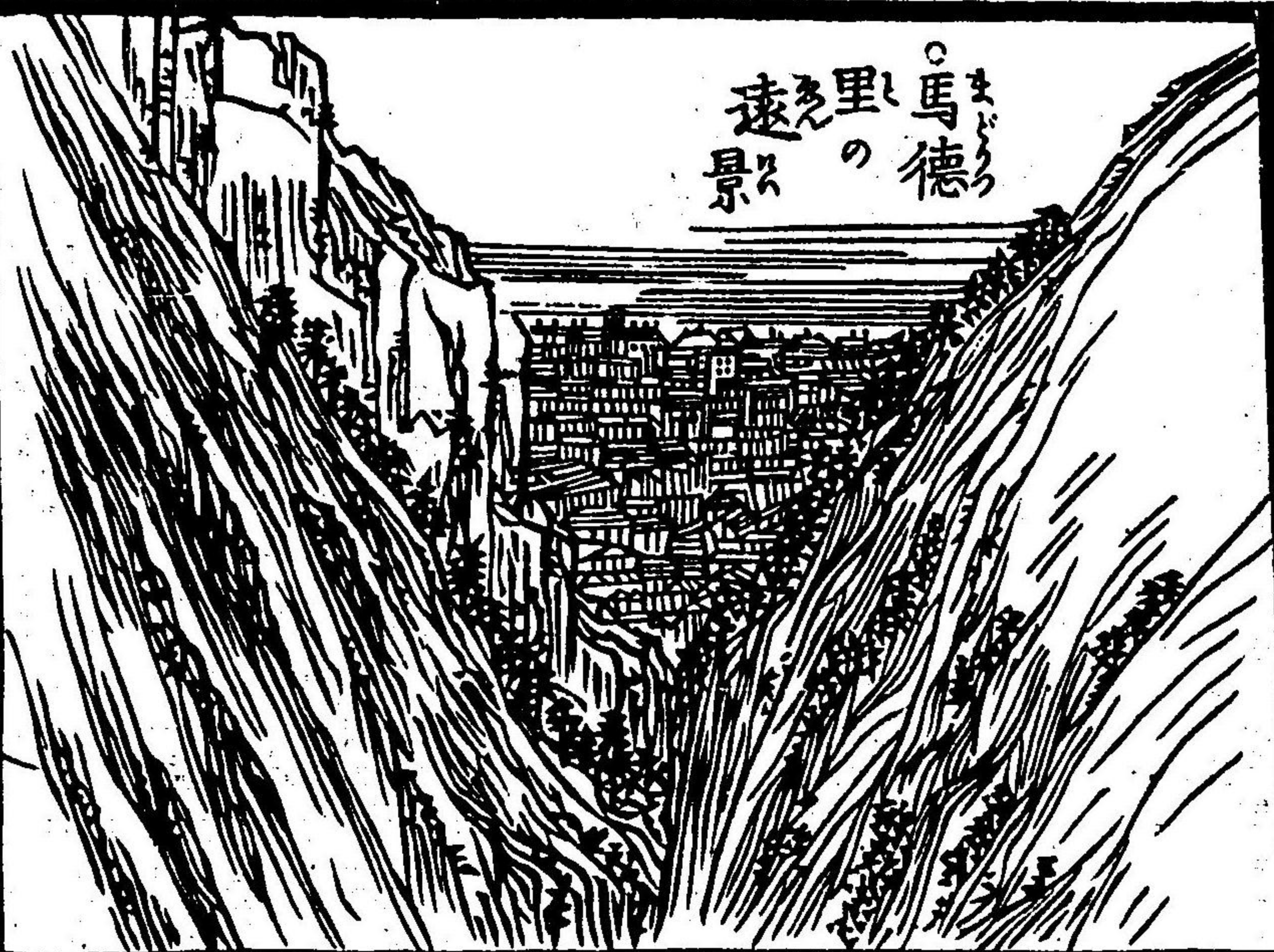
○西班牙の歐羅巴羽の西南の隅ありて海の中へ突出し  
 国あり氣候南へ暑く北へ比里牛斯が嶽の山脈四方  
 小蠟燭り寒氣強しは国と仏蘭西との境へ高嶺峻岨  
 ありて路幅狭く左右の絶壁の屏風と建くるが如し



故是と山門と号くコナスキと言ふところの山門の別  
名て危嶮を以て俚俗の諺に親の子と顧みず子の親  
と顧みずとの語あるに我朝も親知らず子知らず  
の譬へ有ると同ト

南小寄るる地方の季候頗る炎熱あるが故に一ツ歐  
羅巴の中おもても獣畜の肉と食とせず多く魚を用  
ゆるあり

国の中程の皆高原の地なり炎熱に耐むるけしきと



馬徳の里の遠景

時としてガロガと号する北風吹  
来るとあり其寒さ粟列とて  
肌膚と裂くが如くは風は佛  
蒙西国の山中より吹送り来  
るごとく又ワラフと名づくるもの

あり亞非利加島より吹送る  
南風小く夏未至とては風  
大い小起り連日歇ず熱さ蒸

か如く焼が如し故にフラスノ小遇が筋骨を抜まてくるが  
如く心神大い小抑沮るとりふ

け国の海岸小潮の引くる間小水気日小蒸と立騰り  
跡へ白ら塩と結ぶとあり取て食する小風味極めてよ

かり

又「ナントと云ふ河あり水の色黄と帯て流る人試

小物と投入もて先その水の色小変り新く化して石

とある河の中小魚の生とあり両の岸小草の生ると

か「究理学者の考へ小河の水の洞の気と多く含

とるが故に然る事の在やらんとぞ

け国往昔の大その威勢小今之英吉利よりも

勝り葡萄牙国と共小海と渡りて他国へ船とある

とて創り「マジラン」と云ふ人の船小ありと世史とあり

と巡り閩龍と呼ぶ地理学者の亞米理加の国とあり

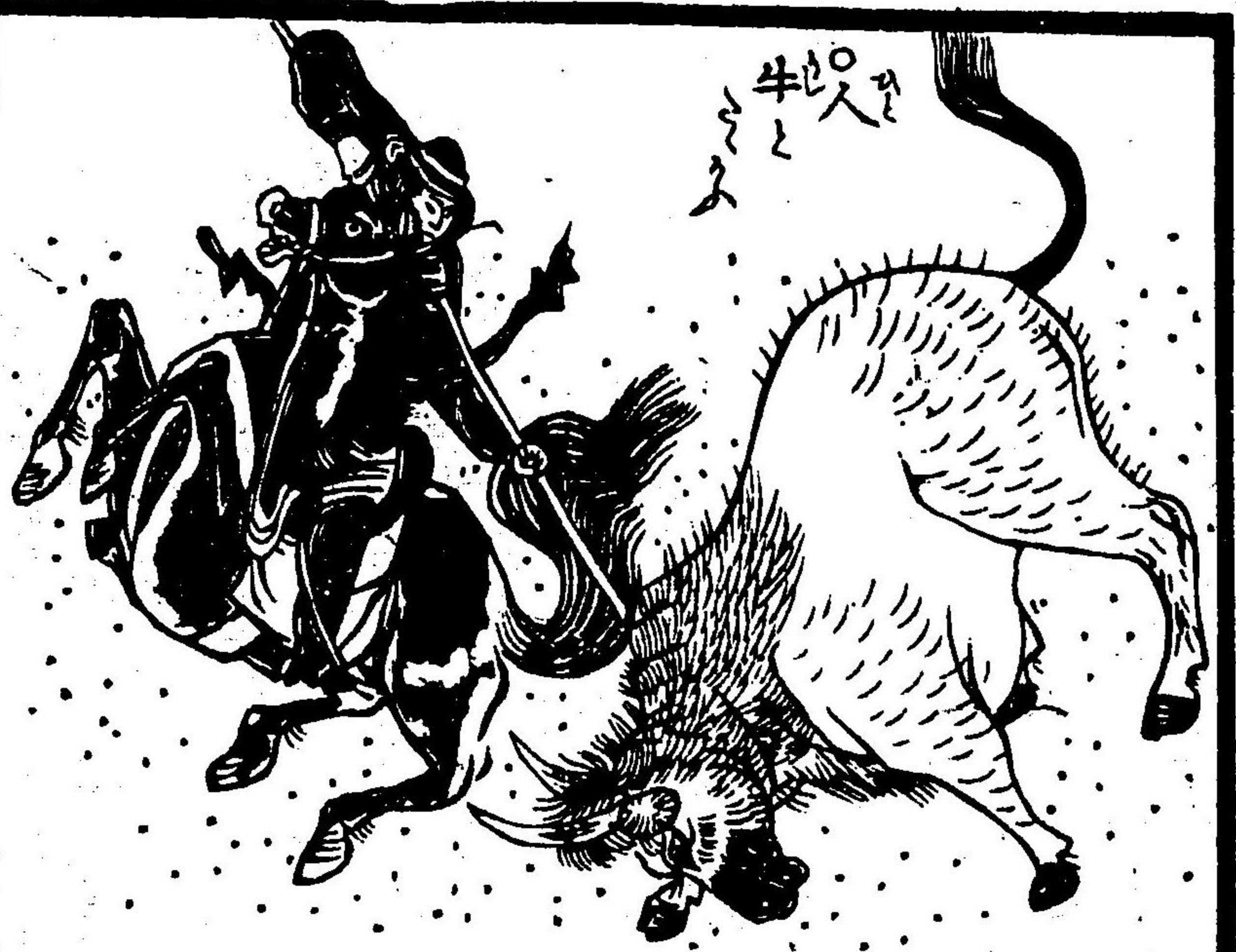
出へ来りけ時葡萄牙小ても瓦媽と云ふ者

喜望峯の沖と船小あり廻り東印度へ渡るの路

と附つくは西班牙と葡萄牙とあり合あせ二国の船ふね米理めり加かままの東印度ひがしいんどう小往こむかひて土地ちとち罷ひらさ交易こうぎとあり  
 小して夥おほくおほく所得しやうとくありなり然しかども後のち小の相互あひあひひ  
 の小の勝かち手てより西班牙と葡萄牙のあ間あ不仲ふちゆうとあり  
 終つひ小戦せんひて接ありあり至いたりいたりけいもい今いまの伊太里国いといりこくの首くび  
 都みやこ小羅馬ろまと云いふ所ところありは羅馬小耶蘇宗やそしゆうの本山ほんざん  
 ありく其和尚そのおそうと羅馬法王ろまほうおうと称いふ其頃そのころの威勢おご廣ひろ  
 大おほあると以もつて羅馬法王ろまほうおうの二国の扱あつかひ小立入たていりなり

説とて言いひけるなりの亞米理加あめりかうのあ閻龍えんりゆうのいんし出しるなり国こくをいハ伊い  
 斯把泥亞人すわにえにん随意ずい小其支配そのしあといはすべく東印度ひがしいんどうの瓦わ  
 媽まの路ちと附つくはる所ところ也なり葡萄牙ポルトガルの者もの長ながく是こゝと領分りやうぶん  
 といはすべく後々の子孫のちのこひら小至いたるままぐいは會盟くわいめい小背そむく  
 天神てんじん必ずかならず罰ばつすべくとあり爰こゝ小於あてて西班牙スペインの西にしの方はた  
 の国こく亞米理加あめりかうと交易こうぎの葡萄牙ポルトガルの東ひがしの方はたの国こく印度いんどうと  
 交易こうぎす然しかども其頃そのころの亞米理加あめりかう未いまだな罷ひらけならな故ゆゑ  
 東支度とうしどの方はたの交易こうぎ小比ひぶなり利益りやく十分じふぶんの一いちあると

以て西班牙王深く是と盪え世界へ九くく球の如く  
 東西と分ツ地球半面への論をて東より進むの  
 終小西小至り西より旋るも果へ東へ出るんと言て事  
 熟る船將小命ト大船五艘と裝飾是小委ら  
 めけしむけ船西小向ひて出帆る大西洋と越えんて  
 大平海小出で遂小東印度ある日リペインの地の  
 島小着し大り小交易の法と罷さ再度大利と  
 得小けむるが国都いよく繁昌して歐羅巴カ勿中の



牛人

大一等とありたり然もども近  
 世小至り国王不徳あるを以て  
 英吉利仏蘭西和蘭とて小  
 外国の領地と尽く奪ひ取  
 らし国威漸く衰えたり  
 耶蘇宗門の古き派と耶  
 蘇舊教と云ひまゝ天主教  
 とりて新き派と耶蘇新

教とら然るふけ国の人の舊教の宗門に凝固り居  
 ると以て五十年あまぐい新教と信するの輩あま  
 が召捕て罪科不行ふの裁判所と建せり夫故  
 新教と信じて捕囚と成り牢内にて命と落す  
 もの往古より二十八万八千餘人生るる焼殺さる者  
 三万四千六百人餘ふ至り初の如きの残忍惡  
 政をも六国の力の衰へも又當然の理合ならずや  
 国の首都と馬德里と号く其王城今より百四十

年あ小焼失き一因りて其頃伊太里国名を得  
 一井ンセツチと呼ぶ大工の上手ありけは是と雇ひ  
 今の王宮を作り一とる  
 け国春夏の二季ふ人と牛とを闘はするの拵有  
 り是とぬるふ先廣大ある家と九造り建周囲へ  
 棧敷と設け見物人する是ふ居り牛と闘ふ者  
 の綺羅美ある衣裳と着馬ふ或ひ徒歩  
 棧敷のよ中の廣庭ふ出で強猛の牛と引出て

是と闘ふもの牛疝と蒙るもの怒り猛り角を揮  
つて突めり馬を貫き人と貫くと間あまぬ危  
と言べうらす人も牛も互ひ血を濺ぎ人力を奮  
て牛を斃せぬ物の群集を拍ち足踏鳴ら  
声と揚て賞賛と我朝の相撲場と異ならず斯  
如くかくて牛を殺すと一日八九頭より十足  
古代の歐羅巴各国とも小岡牛のむびあり  
るまじも今も只は西班牙のく小残まるといふ

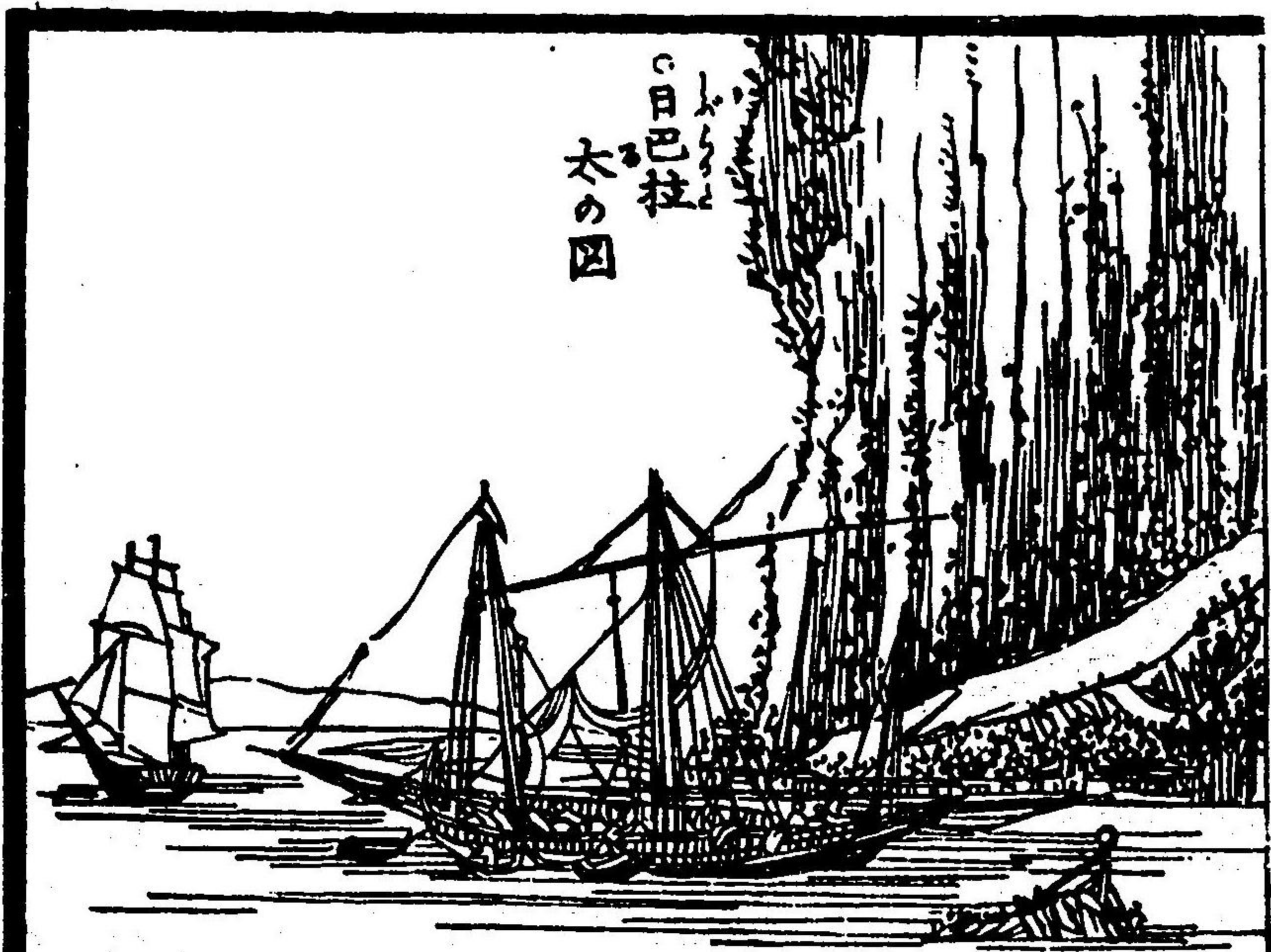
當国の内はエスクリアルと呼ぶ郷あり家数些少  
ども廣大なる寺あり周田十五町余の大伽藍あり  
金銀珠玉と鏤め飾りる礼拝堂講堂も國王  
累世の墳所あり千八百六十の堂室建連り歐  
羅巴初中第一等の大寺と名二百餘年あり二代目  
王の造立せしところありて此普請金千二百万兩あり  
と云ふ

地中海の入り口は日巴拉太と云ふ地あり巖石從身て屏

風と建つが如く海の中へ突立其高さ三十間余小至り周田なる絶壁を以て攀登るべき処あり只西の方への僅小細経の斜小廻りたるありて爰より下り登りてぬすありけ処い往昔より数度の戦争とあり百六十六年より英吉利の領分となり最嚴重なる臺場と構え彼の国の兵卒是と守たりけ辺い暑に耐へざるに河清水を以て元より井戸と掘りても水の湧出るとを以て雨水と溜飲料或は物を洗

ふ等ののみ用ゆる物産の品々を以て英吉利人は是れに依りて他へ益と爲るところあり只地中海の要害と云ふのとありとぞ

當国の王小非爾難多と云ふ人あり其娘の馬利一子と産む名を查理斯と爲す父の非立として日耳曼帝の子あるを以て查理斯父方の家と相続し日耳曼の位へ昇り五代目查理斯と稱ふ人々を以て英雄と云ふに日耳曼列国西班牙不干の国和蒙国伊太里



日巴柱  
木の四

国の大半仏蒙西国の東北  
 の地南北亞米理加刃の国々  
 小至るまで所領とる古菓  
 稀ある威を震へり然る小宗  
 旨論より事起り仏蒙西  
 国王と戦争ふ及び始りぬ  
 数回勝つと後まゝ敗北  
 小及び連も歐羅巴全刃と平

定すると能はざるを歎け天白髪を惠まざりと云て斯る  
 廣大至るの富貴を莖苴の如く投ち忽ち帝位と  
 退ぞとララセンシヤの地の寂莫なる山寺小閑居り  
 け帝人間の栄曜歡樂の夢幻泡沫の如く常  
 空のものと悟り早く法門に遁れり気運の成ざる  
 とん限り一決断ふりて善その始め終りを全うせ  
 一者と云へりけ君存生の中小死後の葬式の礼  
 行ひ哉程をくして卒去りハ千五百五十八年今



三百二十六年おの事ありけり

け国金銀山ありてはとも始めに任せず中古に至り

大いふ富と極め一の亜米理加の墨西哥国より得る

ところの金銀夥一と以てあり然るに其地を失ひて

お及んで稍自国の金銀山ふ心と附ととも果てず英

吉利の人來りて礦山を發くとてんて始めく自国の

物と取るふ至るあり国の人の勉めとするところの地中海

の諸国へ船を出して商賣と為ると以てす諸工匠學術

は都て外国お及ばず然ととも土人の性質傲慢おいて

胸中の實を人お語らず志一高き故お更と勉

むるお勇偉ありとらふ

け地羊甚ご多く常お八百万頭お餘り種類と

ニッお分ち一とメリノと名くメリノといの世畧中とを

び歩行と云ふ後お一羊を牧者數群の羊と牽

連て甲の国より乙の国へ往く商ふ故おけ名あり其

毛筆或ひの織物とらふ用ひて最上と為すま

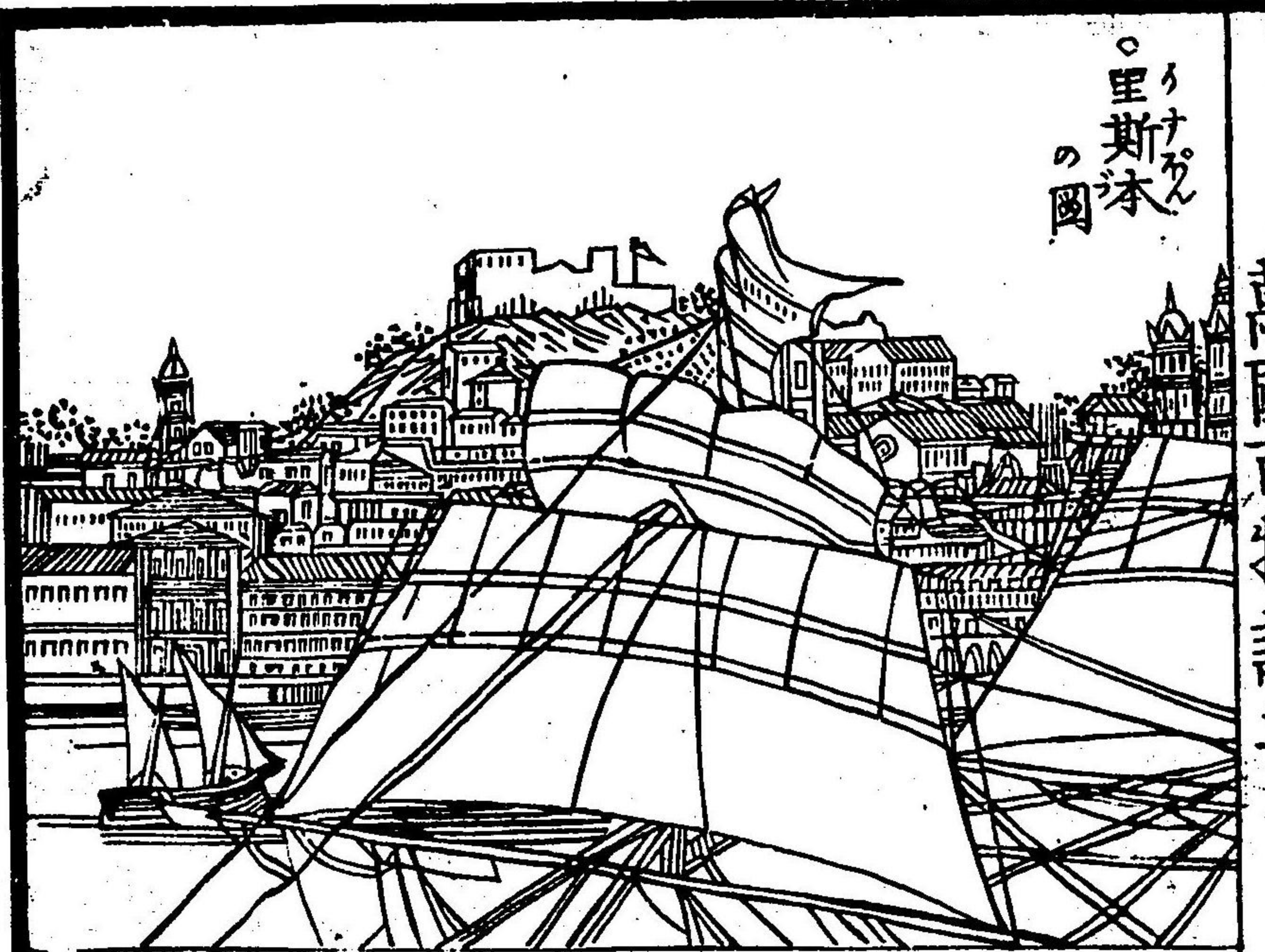
二ツと云ふ在りて他へ出さず是と下等の羊とす

○葡萄牙国の在り

○葡萄牙の歐羅巴の西の限と在りて北東の  
西班牙の東に南西の大西洋小臨む国小狭く時  
候は暑さ方ありけ地海多きと以て西班牙と共  
不旱より能船小なるも既不瓦媽と云る者千四  
百九十八年今より三百七十四年お始めて大西

と経て亜非利加の喜望峯沖を過ぎ東印度  
の海へ出るの船路を得一の閣龍と云ふ者が西  
班牙より船を出して始めて亜米理加へ渡り  
六年の後あり然る瓦媽が東支度へ渡りて土  
地を冥商法と専らふせしより莫大なる大利  
を得る當国の繁昌歐羅巴の中ふのみ然と  
も国の人情弱るが故に和榮英吉利  
仁榮西西班牙とりの人々瓦媽が  
船路を倣ひ亜細亞

里斯本の國



中るる葡萄牙國の得意  
の交易場小至り諸小  
勉強けと終小是らのめ  
小數ヶ所の港を横取りさ  
まごり日本へ西洋船の始め  
て渡り来りも葡萄牙  
の國ふて世俗小南蠻と  
称ふるもの則是るり今い

只亞米埋加加の伯西見國と以て國の益とするの  
ありしとぞ

首都と里斯本と云ふ三百年ありの歐羅巴  
一の繁昌ありりよと今い少く衰へり

け町百十七年前小大地震ありて人家七八分潰れ  
人死すと三万余小至りり

け府の歐羅巴の西の岸の港を以て各國の商船出入  
すると夥しく殊小葡萄酒の毎年積出す高

函より四万函小至るといふ  
 函レスと云ふ山あり峯高からずと雖も西班牙国より  
 の山脈続きふして四方小廣がりホウガ河の北小到り  
 海小入つて終るけ山寒さ強く樹木少し然れど溪間  
 の平地小葡萄と産するて夥しく寸地も葡萄をら  
 ざるいそぎ一故小け山と酒山と号く葡萄を以て酒と  
 作るのりあり當国第一の名産と葡萄とするこそ  
 け国牛少くして驢騾多し

當地の隣り国あり一カス徳の女王カス西国の不干  
 的候といふ人と夫婦小ありカス亞拉伯国の田教宗門の  
 者里斯本の首都と奪ひて是小跋扈一居たり一と  
 千百十二年今より七百六十年小討て其府と取戻  
 一カス徳の地と合併る一始めて王国葡萄牙と称へ  
 たり其後三百二年不どと経て顯理王の世小至り彼  
 の尾媽が船路と得りより国の威勢盛大と極むる小至  
 りたり

国人柔弱くわんじんじやくじやくにして万事ばんじ不拙ふせつ故ゆゑ毛織物けりもの等らうハ皆英  
 吉利人きりしじん来りて是これを製せいす金銀山きんぎんざんありても堀ほりり出ですの  
 術わざ不疎ふそ土地肥沃とちこえるも耕作こうさくの勉こつ甚おと粗怠ろたいるり  
 且また学問がくもんとするとと好あまざり故ゆゑ文字ぶんじと知しる者もの八十  
 人にんの中ちゆう不ふ一人いちにん不過ふたぎずとらふ

○赫勿婁亞国へつむろあにこくの首都こやことシユリセと云ふ府ふの内うち不ふ大おほいなる瀑  
 布ふあり列應河れんが不傾くさる落おちる水みづの落口おちぐちの幅あち三十丈じゅうさんじやう高たかさ  
 六丈四尺ろくじやうしじゆふ其留そのどり数十里すうじゆりの外あは不ふ聞きかば瀑布たふたふ東ひがし不ふ向  
いふくもさくそのせ

以もて落おちる由よし毎朝まいあさ日輪にちりんの昇のぼる時とき不ふ数種すうしゆの虹霓にじ瀑布たふたふ  
 の水みづの落おちる猛勢まうせい不ふて立登たてのぼる雲くもの中ちゆう不ふ現あらはる事ことといふけ  
 処ところ不ふ往古いやくこの賢人けんじん不ふスタロンと云ふ人ひとの建たてし学校がくがうあり  
 徒しやく今いま不ふ至いたつて多おほく



○伊太利國のなる

○伊太里の七国と集めて総称して二十五国と合せて日耳曼又と云ふと同じ地アドリヤ海と地中海の間へ長く突出する国にして歐羅巴島の南の果より故に氣候大概温和をまともシロツコと号ける亞非利加島の大熱沙漠の地より吹來る南風ありけは炎氣不逢ふ時へ人の元より鳥畜類不至るまづも大い小惱む苦しめり三方の海に於て國の中は山脈多り其

天然の風景との地不及ぶところあり然とも火の燃る山多とて以て南部の地方へ地震の變不逢と多し就中今より八十年やどぶの「那波里」と云ふ山より火を噴き走らすと猛烈にして燃石焼砂四方の近國不散乱し是がぬ不死亡する人民牛馬の數幾千万と云ふと知らず其皆と地中海と越えて遠く亞非利加島ある埃及國を以てまへころとらふ

は國中往昔の亞非利加島へ近とて以てその地と越

印度諸国の産物と積来り是と歐羅巴の国々賣  
 る故大り小富とぬしとと葡萄牙国の瓦媽者  
 喜望峯と繞るの船路と定さしより後け国の交易  
 追々衰るへ終小絶るふりけとび総刃とも小大い  
 小貧困と極め列国の王侯と財用乏しと小落陷  
 且ども我古昔と信じて新しと定さしりしが近頃漸  
 人心昇化小向ふと云ふ  
 惣国の旗印ハ黄金の翅生る獅子と染出して用



伊人  
 普人と倫

あるあり魯西亞人は是と難いて  
 金の翅生る獅子と何と  
 所小於て獲一やと言けり  
 伊太里人は是小答へて二ツ頭の  
 ある鷲と出す土地より捕へ  
 来たりと言一とあり是魯  
 西亞の旗印ハ双頭の鷲と  
 して以てあり

殿堂国の首都と羅馬と云ふ耶蘇法皇の居所  
 一と羅馬法皇と稱すは則是より故小往古の歐  
 羅巴中の盛大是れ続くものあり且日耳曼帝の  
 羅馬府と以て西都と為るの舊跡あり今小  
 市中小三百二十八の寺院ありて造築極めて宏麗  
 あり中よ聖人伯多祿と云ふ者の寺は高さ十六丈  
 六尺濶さ二十八丈餘堂の周圍は白と黒の石と以て  
 積上げ人物花鳥とりの彫刻とみせり

まろく勿擲祭亞府と云ふありけ町六十の小峙小跨  
 り四百五十の橋と架して往来と為一人の家はこま  
 水中へを数の柱と立て其上へ営む造築の妙巧能  
 他国人の及ぶところ小非ずまろくけ府の近傍小一基  
 の層塔あり高さ二十三丈ありて尖頭小羽容の立  
 像立ち其高さ一丈六尺ありと之とも洋の上より  
 是と望めは恰も十三歳の小児の如し  
 け地小最怪しむと坑あり深さ二丈ありと幅あり



廣くならずと雖も人獸畜とも不誤つて是れ入るるに  
皆尽く死するといふ

○齊西里亜島小坑あり俚俗の説小往昔けとるふ

ハフルエラルと号けー風の神住居て楽し事あ

り怒るる時心の修ふ烈風と起一近と四

辺りの是がぬ小悩こるる夥しとして人大り是と

忍る今も狽常小其坑より風と吹出すといふ

け齊西里の地の土地極めて豊饒小く五穀能生

するが故小世の人是と羅馬の糧庫と称する島

中ふ火を噴出す山あり是とアテナと云ふ百七十年

前大地震して四十四の都城村落皆地中ふ落入り

ま首府「コレナ」の町も地震のぬ小人家を潰され

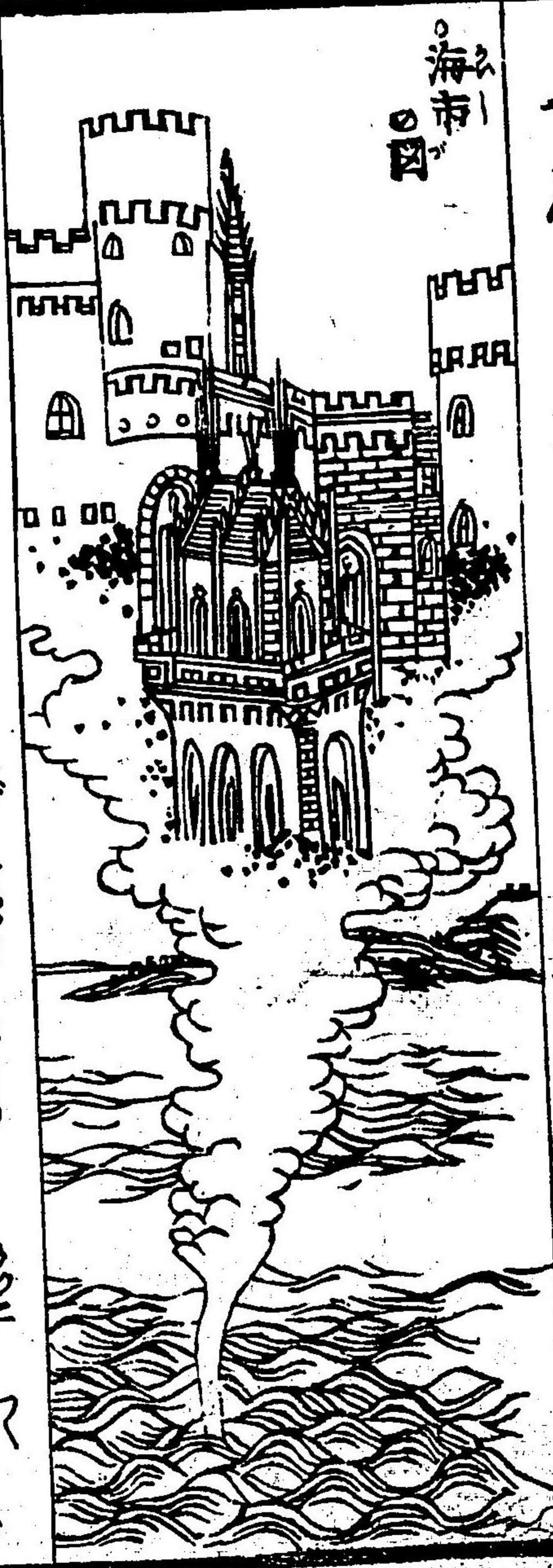
人の死する七百三人不及びうり故小那波里の地とけ

処の季候程よく産物有らざる者まるといふも噴

火山多くして地震の難あまば人住とを嫌ふと云り

當所那波里の地小對する海の中小時とて海市

と見るにありとあり



○撒而地泥亞勿ハ珊瑚樹と名産とす故小国ハ海小  
 當所の人藪と養ふるり蓋西洋諸島ハて蚕を作ら  
 け地と以て權輿とするにぞ  
 海市

入りて皆是を求む

○哥而西加島ハ仁蒙西帝初代拿破崙とらふ人の出  
 づるところなりて拿破崙の産と一ハアジヤシラと云ふ  
 港ありまゝハエルバ島の拿破崙帝の流罪せらるり  
 地小して哥而西加より僅小九里を隔てり小島  
 りまどども拿破崙の再度旗上せり地をよび其名最  
 高しけ島小鎮の鑛山多さと以て近くの海と繋る  
 船ハ磁石其鑛の氣小感ト觸て針の向と狂りす

有りとしふ

當國の人の商買の業小長ずると以て面小従ふの  
色いろ見ゆるも服小狎な奸謀あり又事小迷惑まよひて邪正  
と辨わずる小疎し然さとも性質爽快善とて愛  
し悪あくしとて憎むの情甚おく深ふかし且かつに惜おぼ華奢  
と喜ぶと以て音曲舞劇と好むと食たべ忘わす  
ふ至いたるべし

萬國百物語二終

一 萬國百物語

全八冊

一 和英  
雜書 名頭字盡

全一冊

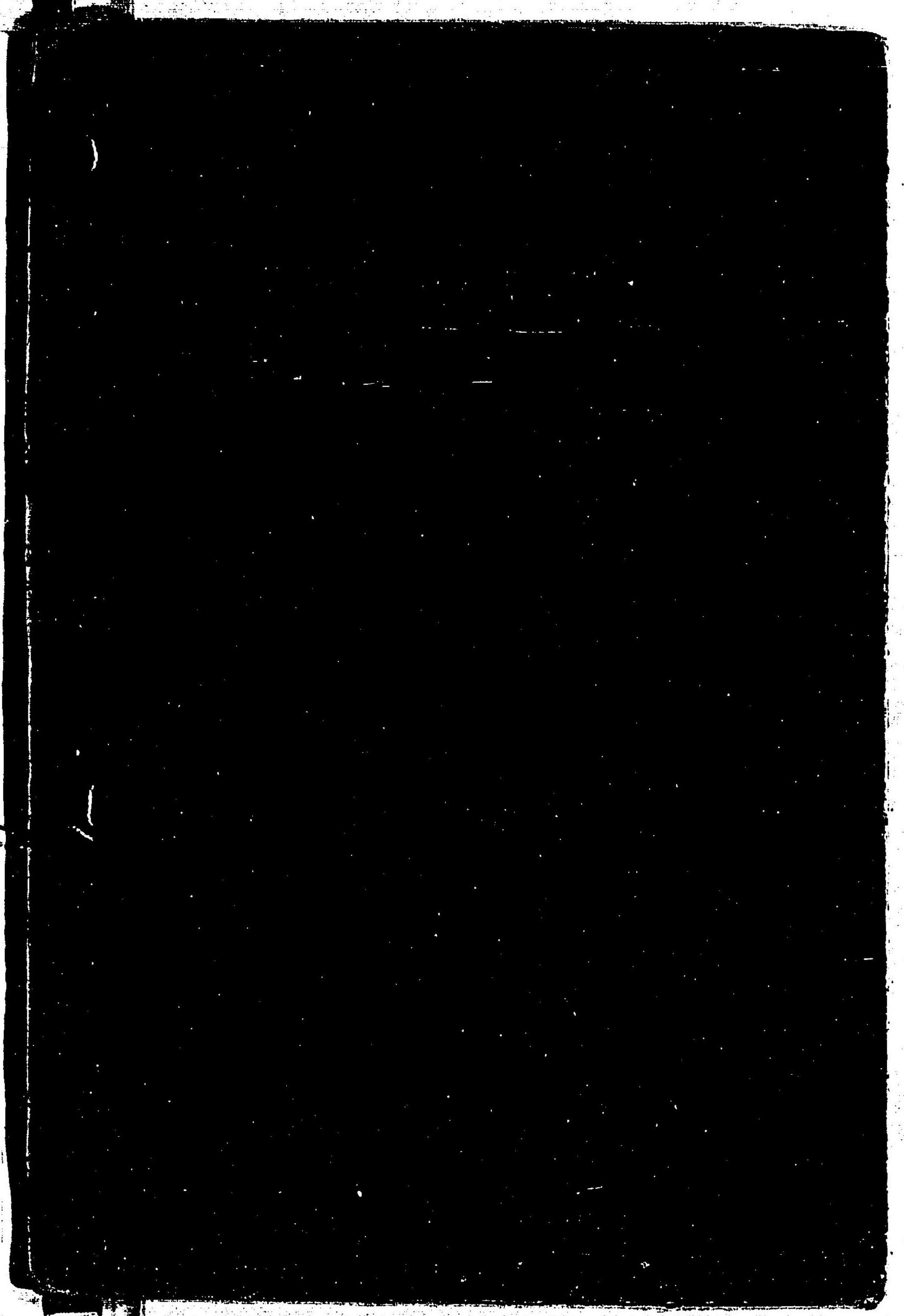
*Handwritten signature*

東京書肆

宮田伊助藏板

*Handwritten signature*

本所亀沢町



特32

233



大日本教育會館

第 一 室

四 冊	四 號	二 架	一 函
--------	--------	--------	--------